

令和4年度  
第3次静岡市ものづくり産業振興基本計画  
実施状況報告書

経済局商工部 産業振興課



\*\*\* 目 次 \*\*\*

令和4年度 第3次静岡市ものづくり産業振興基本計画の実施状況等について	1
1 経 緯	1
2 基本計画の概要	1
3 実施状況等	2
(1) 方針ごとの実施状況	4
①方針1 企業の誘致と留置の推進	4
②方針2 新市場・販路開拓に対する支援	5
③方針3 新製品・技術開発等に対する支援	7
④方針4 中小企業の経営基盤・競争力の強化	8
⑤方針5 次代を担う多様な人材の育成	11
⑥方針6 伝統工芸技術の保存・継承	13
(2) 実施状況の総括	14
4 各事業の進実施状況管理個票	17



## 令和4年度 第3次静岡市ものづくり産業振興基本計画の実施状況等について

静岡市ものづくり産業振興条例（以下「条例」という。）第8条第7項の規定に基づき、次に掲げる事項について報告いたします。

### 1 経 緯

静岡市ものづくり産業振興基本計画（以下「基本計画」という。）は、平成23年3月に議員提案をもとに制定された条例を根拠とし、同条例第18条に規定する静岡市ものづくり産業振興審議会及び関係機関と連携を図りながら、平成24年7月、「多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡」を目標に掲げ策定しました。

その後、計画の進捗状況や社会経済情勢の変化を踏まえ、継続的にものづくり産業の振興を推進するため、第3次静岡市総合計画及び第2次静岡市産業振興プランとの整合を図り、平成27年3月に第2次基本計画を策定し、計画目標の達成に向け取り組んできました。

この第2次基本計画が平成31年3月に満了したことから、これまでの基本計画と同じく、条例の目的に定めるとおり「ものづくり産業の振興を総合的かつ計画的に推進し、もって地域経済の健全かつ持続的な発展及び市民生活の向上に寄与する」ことの達成に向けて、平成31年4月に第3次基本計画を施行しました。

### 2 基本計画の概要

基本計画については、条例に掲げる趣旨の具現化に向けたプロセスであることから、計画目標を支える6つの方針に基づき全21の事業を設けました。

根 拠 法 令	静岡市ものづくり産業振興条例第8条第1項（基本計画の策定等）
計 画 期 間	平成31年度～令和4年度（4か年度）
策 定 目 的	本市ものづくり産業の総合的かつ計画的な振興を図るため
計 画 構 成 等	(1) 計画目標 多様な地域資源が連携するものづくり創造都市 静岡 (2) 方 針 方針1 … 企業の誘致と留置の推進 方針2 … 新市場・販路開拓に対する支援 方針3 … 新製品・技術開発等に対する支援 方針4 … 中小企業の経営基盤・競争力の強化 方針5 … 次代を担う多様な人材の育成 方針6 … 伝統工芸技術の保存・継承 (3) 事 業 各事業の成果目標及び事業実績一覧表のとおり

基本計画の実施主体については、計画目標の達成に向けた事業を実施する担当課として、経済局商工部3課（産業政策課、産業振興課、商業労政課）に加え、男女共同参画・人権政策課、地域包括ケア・誰もが活躍推進本部、中山間地振興課、教育センターが基本計画の推進に取り組んでいます。

事業担当課では、方針や施策を踏まえるとともに、計画目標を達成するための成果目標のもとで、効率的かつ効果的な事業運営に努めました。

### 3 実施状況等

基本計画は、前項のとおり、計画目標の達成に向けて体系化が図られたものであるため、その実施状況にあたっては、一事業の実施状況を注視するだけでなく、計画目標を実現させるために掲げた方針の実施状況を捉えることで、計画全般を総合的に把握する必要があります。そのため、今回の報告では、図1のとおり、6つの方針を基本的な枠組みと捉えるとともに、6つの方針の中に位置付けられた各事業に関する実施状況をもとに、方針ごとの実施状況を把握しています。その後、それぞれの方針に関する実施状況を総合的に判断した結果をもとに、基本計画全体の実施状況を包括的に評価しています。

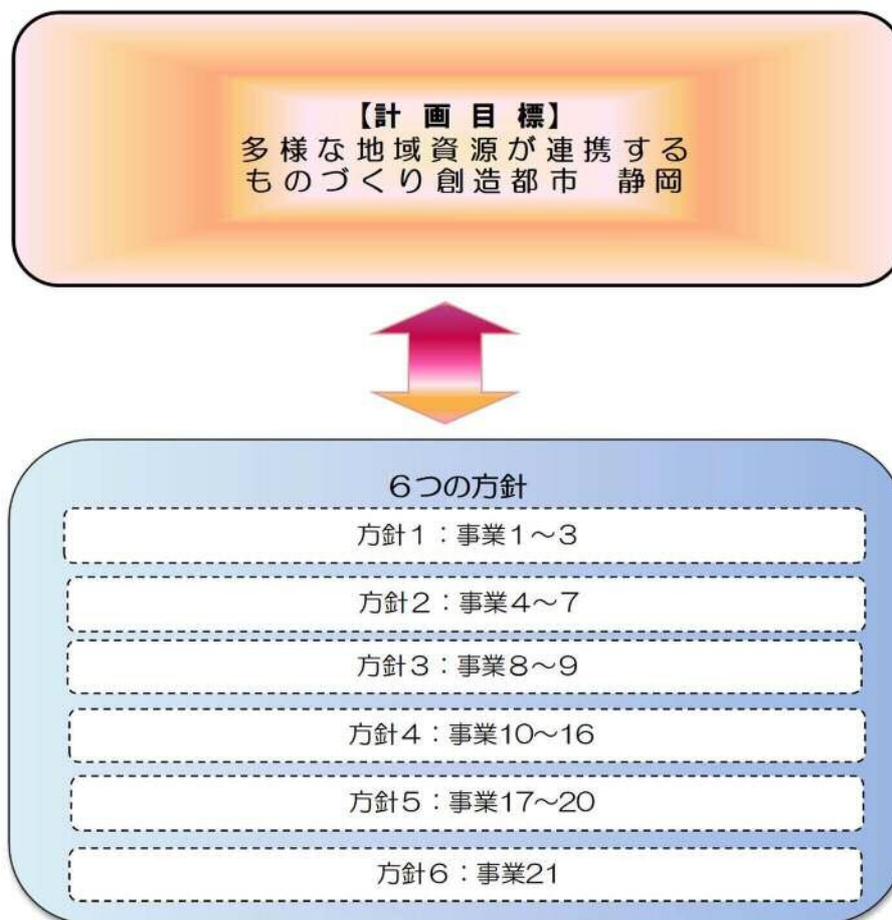


図1 基本計画体系図

各重点項目及び方針の実施状況を把握するため、各種事業の成果目標に対する達成状況等について、表1のとおり評価しています。なお、数値目標を設けている事業については、事務事業総点検表の評価基準に倣い、「S」から「C」までの4段階による評価を実施し、数値目標を設けていない事業については、「※」として区分しています。

事業評価	成果目標に対する達成状況等
S	期待を上回る（105%以上）
A	期待どおり（90%以上 105%未満）
B	期待を下回る（70%以上 90%未満）
C	期待を顕著に下回る（70%未満）
※	数値目標を設けていない

表1 成果目標に対する各種事業の達成状況等

その後、各種事業の成果目標に対する達成状況等を方針ごとに取りまとめ、方針別の実施状況について表2のとおり評価しています。

方針別評価	方針別実施状況の評価
◎	期待を上回る（S+Aの割合が90%以上 100%以下）
○	期待どおり（S+Aの割合が70%以上 90%未満）
△	期待を下回る（S+Aの割合が50%以上 70%未満）
×	期待を顕著に下回る（S+Aの割合が50%未満）

表2 方針別実施状況の評価

(1) 方針ごとの実施状況

①方針1 企業の誘致と留置の推進

方針1については、表3のとおり、数値目標を設定している2事業2項目のうち「S」評価が1項目、「B」評価が1項目となったことから、方針別実施状況の評価を「△（期待を下回る）」としています。

事業1の「企業立地の推進」については、市外企業の誘致、市内企業の留置に向けて、積極的な企業訪問を実施し、本市の立地優位性・ビジネス環境のPRや助成制度の情報発信を積極的に行うことで、企業立地の促進に努め、令和4年度は、テレワークの推進による地方移転ニーズを取り込むため、情報発信等で県や東京事務所と連携することで、首都圏からの企業誘致に成功し、新規企業立地の年間目標件数17件に対し、19件の立地に成功しました。引き続き、企業へのヒアリングを基に、ニーズに合わせた助成制度へと見直しを図るとともに、立地に際しての様々な行政手続きに係るワンストップサービスを産業振興課が担うなど、企業に寄り添った支援を実施していきます。

また、事業3－(1)の「「地域経済牽引事業」承認案件の企業立地支援」については、令和2年度から「電気機械器具製造業」や「食品・化粧品製造業」等の5分野の業種を対象に、上記事業計画の承認により市街化調整区域内への企業立地を可能とする新たな基準が設けられたため、引き続き、新たな設備投資を計画している企業に対し、同計画の作成を促しました。承認件数は目標の10件に対して7件の認定となったことから、企業訪問等において、設備投資や新規立地を計画している企業に対して、本制度のみならず、金融機関等の支援施策と併せて制度説明を行う等により、新規案件の発掘に努めていきます。一方、「地域未来投資促進税制」の活用に必要な課税特例のための先進性確認申請件数は、前年の6件から9件に拡大し、これまでの承認企業により制度が着実に活用されています。

方針・事業	成果指標	令和4年度 事業結果	事業評価
<b>方針(1) 企業の誘致と留置の推進</b>			
<b>事業1 企業立地の推進</b>	新規企業立地件数 17件	19件 (達成率：111%)	S
<b>事業2 恩田原・片山土地区画整理事業 ★</b>	組合、コーディネーターと連携した企業立地の推進	－	※
<b>事業3 地域未来投資促進法「地域基本計画」の推進 ★</b>			
(1) 「地域経済牽引事業」承認案件の企業立地支援	地域経済牽引事業計画承認件数：10件	7件 (達成率：70%)	B
(2) 「重点促進区域」の開発の実現化	開発の実現に向けた関係部局との協議・調整	－	※

表3 方針1の実施状況等

## ②方針2 新市場・販路開拓に対する支援

方針2については、表4のとおり、数値目標を設定している4事業8項目のうち、「S」評価が3項目、「A」評価が3項目。「C」評価が2項目となったことから、方針別実施状況の評価を「○（期待どおり）」としています。

事業4の「全国規模等の見本市への出展助成等」については、市内中小製造事業者が全国的な規模の展示会や見本市に出展する際の小間料等を支援する「大規模展示会出展等事業補助金」による補助と、大規模な集客が見込まれる日本最大級の機械要素・加工技術を集めた専門技術展示会である「第26回 機械要素技術展（幕張メッセ）」に静岡市ブースを設け、市内製造事業者と共同で出展を行う「大規模展示会共同出展事業」に取り組みました。

「大規模展示会出展等事業補助金」については、主に金融機関を通じ制度の周知を実施、補助金の利用企業が目的意識を持ち各社出展を行ったことで目標とした「商談に進んだ割合」はおおむね達成することができました。アフターコロナに向け主要課題である販路開拓や新商品開発に対する企業の意識が高まっていることから、令和5年度からは、入り口である新商品開発から、出口である販路開拓までを総合的に支援する新制度を開始し、企業のニーズに応じてまいります。

「大規模展示会共同出展事業」については、令和4年6月に開催された「第27回機械要素技術展」に静岡市ブースを出展し、市内中小製造事業者7社と共同出展を行いました。目標とした「商談に進んだ割合」は達成することができませんでしたが、この要因としては、新型コロナウイルスの影響も少なくなったことで展示会そのもの及び静岡市ブースへの来場者数が大幅に増加し、共同出展企業の名刺交換数もこれに比例して大幅に増加したことに伴うものであります。これまで、当事業を通じて新規商談が成約になった事例もあるなど、企業からは、多くのバイヤーと接点を持てたり、技術のトレンドに接することができたりする貴重な機会として参加事業者からは高い評価を得ています。令和5年度においては引き続き「第28回機械要素技術展（令和5年6月・東京ビッグサイト）」に出展し、市内企業の販路開拓支援を継続しています。

事業6－（2）の「しずおか特産品まつり」開催による販売促進支援については、これまでの「春の市」「秋の市」に加え、静岡浅間神社において行われた「太神楽祭」に参加し「冬の市」を開催しました。「オクシズマルシェ」や「さわやかウォーキング」が同時開催され、また、「大河ドラマ館」がオープンしていたことや好天が重なったこともあり、目標とした来場者数を達成することができました。定期的なイベントとして認知されるよう、今後も事業を継続していく必要がありますが、PRが不足している点が課題です。令和4年度はデザインを変更した結果一定の効果があつたと見受けられますが、事前のイベント周知については十分に行えなかったことから、令和5年度以降の課題として取り組んでまいります。

方針（2）新市場・販路開拓に対する支援			
<b>事業4</b> 全国規模等の見本市への出展助成等	商談に進んだ割合（名刺交換件数のうち商談に進んだ件数の割合） 大規模展示会出展等事業補助金①10.7% 大規模展示会共同出展事業②11%	①9.8% （達成率：91.6%） ②4.3% （達成率：39%）	①A ②C
<b>事業5</b> 首都圏におけるプロモーション強化			
(1) アンテナショップ開設事業 ★	令和3年度に終了	—	※
(2) ホビ—産業育成支援事業	「ホビ—のまち静岡」の認知度 30%	83.8% （達成率：279%）	S
(3) 伝統工芸品等の展示販売会	静岡市特産品東京展示会での売上 4,415千円	4,000千円 （達成率：90.6%）	A
<b>事業6</b> 地場産品の販路開拓・販売促進			
(1) 駿府楽市によるPR・販売促進支援	駿府楽市での工芸品の年間売上金額 31,500千円	40,770千円 （達成率：129%）	S
(2) 「しずおか特産品まつり」開催による販売促進支援 ★	来場者数 4,000人（春・秋） 2,000人（冬）	春の市10,000人 （達成率：250%） 秋の市2,650人 （達成率：66%） 冬の市2,000人 （達成率：100%）	S
(3) 「産業フェアしずおか」開催補助金	来場者数 32,000人	14,500人 （達成率：45%）	C
<b>事業7</b> 中小企業の海外展開に対する支援			
(1) 国際食品見本市の出展等による支援 ★	商談実施件数 36件	38件 （達成率：106%）	S
(2) 海外で開催される見本市への出展助成等	商談成約率（名刺交換件数のうち商談に進んだ件数の割合）-%	— （新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、海外展示会に出展する企業はなかった）	※

注）★印は第3次基本計画の策定に伴い新たに搭載された事業

表4 方針2の実施状況等

### ③方針3 新製品・技術開発等に対する支援

方針3については、表5のとおり、数値目標を設定している2事業4項目のうち、事業評価が「A」となった事業が2項目、「B」となった事業が2項目であったことから、方針別実施状況の評価を「△（期待を下回る）」としています。

事業8－（2）の「デザイナー等とのコラボレーションに対する支援」では、「ニューウェーブしずおか創造事業」を実施しました。地元の意欲的地場産業者が参加、プロデューサー指導のもと公募デザイナーとの協働により、デザイン開発を実施。試作を行い、PRツール等を作成しつつHP等で告知し、「東京インターナショナルギフトショー」に出展し販路開拓を行いました。開発点数は開発内容により大きく左右される部分も大きく、開発は十分に実施されていると捉えていますが、今後は開発品の一層の商品化を図っていく必要があると考えています。

事業9の「産業財産権出願に対する助成」については、静岡県発明協会や市内の弁理士と連携し、12件の技術保護に対するニーズに対応することができました。知的財産権の保護や活用により、新たな付加価値の創出につなげるのみならず、産業財産権出願が他社への牽制にもなることから、市内企業の競争力強化のため周知をより強化し、当制度の更なる認知度向上、活用を推進してまいります。

また令和4年度中は、外国出願に対する問い合わせはなかったものの、企業のニーズを掴んだ場合には、外国出願に対する支援メニューを保有する日本貿易振興機構静岡情報センター（JETRO静岡）と連携を図っていきます。

方針・事業	成果指標	令和4年度 事業結果	事業評価
<b>方針（3）新製品・技術開発等に対する支援</b>			
<b>事業8 新商品開発等に対する支援</b>			
(1) 新商品開発等に対する助成	新商品等開発支援件数 7件	6件 (達成率：86%)	B
(2) デザイナー等とのコラボレーションに対する支援	ニューウェーブしずおか創造 事業 開発点数30件	22点 (達成率：73%)	B
(3) 専門家の指導による新商品開発支援プロジェクトの実施	プロジェクト参加企業数 6社	6社 (達成率：100%)	A
<b>事業9 産業財産権出願に対する助成</b>	産業財産権出願支援件数 13件	12件 (達成率：92%)	A

表5 方針3の実施状況等

#### ④方針4 中小企業の経営基盤・競争力の強化

方針4については、表6のとおり、数値目標を設定している7事業16項目のうち、事業評価「S」が9項目、「A」が1項目、「B」が2項目、「C」が4項目であったことから、方針別実施状況の評価を「△（期待を下回る）」と評価しています。

事業10-（1）「事業高度化機械設備設置事業補助金」は、中小製造事業者に対して、生産性の向上を目的とする機械設備の設置費用に対して助成を行うことで、地域の産業の活性化及び高度化を図るものです。金融機関や支援団体等を通じて制度の周知を実施、申請手続きの支援を行うとともに課題のヒアリングも実施し、本補助金以外の支援にもつなげられるよう取り組みました。令和4年度は目標件数を下回りましたが、物価高騰の影響に加え、世界的な半導体不足などにより機械設備の納入時期の見通しが立たないことから市内企業が設備投資に慎重であったと考えられます。しかしながら、生産性向上に対する企業ニーズは引き続き高いことから、定期的に企業から直接情報収集する等により、設備投資ニーズの掘り起こしを行ってまいります。

事業10-（4）「IT技術の活用・促進に関する検討」については、静岡商工会議所と連携した「ITなんでも相談窓口」の設置、窓口相談、巡回指導、セミナーの実施等によりIT導入の促進と支援に努めました。支援件数282件は前年を超え、目標である150件を大きく上回りました。DX推進など、デジタル活用に向けた相談ニーズは今後も多く見込まれることから、各種デジタル関連の支援体制の強化を図っていきます。

事業15-（1）の「「ホビーのまち静岡」推進事業」は、本市の地域資源であるホビーを活用し、「ホビーのまち静岡」として市内外に情報発信することで、市のブランド化及び地域経済の活性化を図るものです。ホビー推進協議会静岡が実施するホビーのまち静岡推進事業（静岡ホビースクエアの運営等）に対し、補助金を交付しました。「ホビーのまち静岡」の認知度は現状、目標を上回っておりますが、引き続き、ホビー推進協議会静岡と連携し、内容、時期及び対象を見極め、効果的なシティプロモーション推進に取り組んでいきます。

事業16の「地場産品の情報発信・愛用促進」については、JR静岡駅構内の駿府楽市と、郊外に立地する駿府匠宿において、本市の伝統工芸品を中心とした地場産品の展示や各種PRによる情報発信を行うものです。駿府楽市での年間売上金額、駿府匠宿での創作体験の体験者数、利用者満足度のいずれも目標を上回りました。駿府楽市での売り上げについては目標を上回ったものの、コロナ禍以前を下回っていることから、デジタルサイネージの導入や展示コーナーの改修等により購買環境改善を行っていく必要があります。駿府匠宿については、指定管理者の創意工夫により、創作体験の改善、SNSを活用した広報戦略などが功を奏しました。令和5年度からは新規の創作体験として「模型」を取り入れることを予定しており、今後も指定管理者及び地場産業界と連携し、施設の更なる魅力向上を図っていきます。

方針・事業	成果指標	令和4年度 事業結果	事業評価
<b>方針（4）中小企業の経営基盤・競争力の強化</b>			
<b>事業10 生産性向上に取り組む中小企業への支援</b>			
(1) 事業高度化機械設備設置事業補助金	機械設備設置支援件数 30件	16件 (達成率：53%)	C
(2) 現場改善支援事業 ★	現場改善支援事業所数 8 者	15者 (達成率：188%)	S
(3) 生産性向上特別措置法に係る 先端設備等導入計画の認定 ★	新規認定件数 150件	99件 (達成率：66%)	C
(4) IT技術の活用・促進に関する検討 ★	IT導入に関する支援件数 150件	282件 (達成率：188%)	S
<b>事業11 事業承継に対する支援 ★</b>	専門家派遣を通じた事業 承継に関する支援件数 80件	14件 (達成率：18%)	C
<b>事業12 中小企業融資制度による支援</b>	制度融資申込件数 700件	1,016件 (達成率：145%)	S
<b>事業13 企業OB人材等の活用 ★</b>	マッチング率（参加企業のうち、 人材の支援を受け入れた企業の割合） 50%	35.7% (達成率：71%)	B
<b>事業14 中小企業等の表彰事業</b>			
(1) CSR活動表彰事業	企業表彰件数 4 件	2 件 (達成率：50%)	C
(2) 中小企業者技術表彰事業	受賞事業者が広報された件数 3 件	4 件 (達成率：133%)	S
(3) 多様な人材の活躍応援事業所表彰事業 ★	表彰企業数 5 件	4 件 (達成率：80%)	B

注) ★印は第3次基本計画の策定に伴い新たに搭載された事業

表6 方針4の実施状況等（次項に続く）

方針・事業	成果指標	令和4年度 事業結果	事業評価
<b>方針(4) 中小企業の経営基盤・競争力の強化</b>			
<b>事業15 本市に根ざした産業のブランド化</b>			
(1) 「ホビーのまち静岡」推進事業	「ホビーのまち静岡」の認知度 30%	83.8% (達成率：279%)	S
(2) 地域産業振興ブランド認証事業	展示販売会等実施回数 6回	6回 (達成率：100%)	A
(3) オクシズ「漆-japan-の里」構想事業 ★	漆植樹面積 0.36ha	0.47ha (達成率：131%)	S
<b>事業16 地場産品の情報発信・愛用推進</b>	①隣接する駿府楽市での 工芸品の年間売上金額 31,500千円 ②駿府匠宿創作体験者数 者数 19,300人 ③当該施設利用者満足度 92%以上	①40,770千円 (達成率：129%) ②29,513人 (達成率：153%) ③97.8% (達成率：106%)	①S ②S ③S

注) ★印は第3次基本計画の策定に伴い新たに搭載された事業

表6 方針4の実施状況等(前項から続く)

## ⑤方針5 多様な産業人材の確保・育成

方針5では、表7のとおり、数値目標を設定している4事業12項目のうち、「S」評価が2項目、「A」評価が7項目、「B」評価が1項目、「C」評価が2項目となったことから、方針別実施状況の評価を「○（期待どおり）」としています。

事業17－（2）「ものづくり教育推進事業」については、令和3年度からは「ものづくりキャリア教育推進事業」として子どもたちのものづくりへの関心を高めるとともに、本市に根付いた産業及びその仕事への理解を深めるため、市内小学校に対し、プラモデル等の本市ものづくり産業をテーマにした出前授業を実施しました。結果、授業を受けた児童の大部分にもものづくりについて関心を持ってもらうことができ、ものづくりに興味を持った児童の割合は91%となり、目標を大きく上回ることができました。

実施校からの好評を受け、今後も引き続き、プラモデルをはじめとした静岡市を代表するものづくり産業（缶詰等）について、各学校のキャリア教育ニーズに対応するため、申込校と講師との連携を密にしながら実施していきます。

事業18－（2）「若者の地元就職・U I J ターン就職の促進事業」は、地元就職並びに、U I J ターンを志す若者をはじめ、市内企業の情報が行き届いていない若者に対する課題解決を図ることを目的として、若者就活応援サイト「しずまっち」等の様々なツールを活用し、若者が市内企業への就職を将来の選択肢として捉えることができるよう取り組む事業です。令和4年度は、「市内企業への就職関心度」「将来の選択肢が広がった生徒の割合」ともに目標を上回りました。引き続き、早期からのキャリア形成に取り組むとともに、しずまっち等を活用しながら、若者と企業が相互交流できる機会を創出し、市内企業への関心を高められるよう取り組んでまいります。

事業19「若手職人の育成事業」は、地場産業界の後継者確保・育成及び新規就業者の定着を図るため、「クラフトマンサポート事業」として財政的な支援を行いました。令和4年度は現場実習短期支援において3名の支援を開始し、うち2名が現場実習長期支援事業に移行し、計4名が現場実習長期支援事業を利用することで目標を上回りました。そのほか、現場実習長期支援事業を修了した者を雇用した事業主に対して交付する「雇用奨励金」を2名、新たに職人として独立した者を対象に建物の賃借料等を補助する「独立支援補助金交付事業」を3名が継続利用しており、それぞれ事業の利用により順調に経営が続いています。現場実習長期支援事業については実習者の途中挫折を減らすためのフォローが必要と考えており、実習者と指導者それぞれに対して個別的な対応を行ってまいります。また、当事業の設計から20年以上経過しています。雇用奨励金については令和4年度に見直しを行った結果利用者が増加し、若手職人の業界定着を図ることができたことから、他の制度についても見直しを検討してまいります。

方針・事業	成果指標	令和4年度 事業結果	事業評価
<b>方針(5) 多様な産業人材の確保・育成</b>			
<b>事業17 ものづくり体験・学習機会の提供</b>			
(1) 駿府匠宿での地場産品体験学習事業	申込児童数 3,250人	2,207人 (達成率：68%)	C
(2) ものづくり教育推進事業 ★	ものづくりに興味を持った児童 60%	91.1% (達成率：152%)	S
(3) こどもクリエイティブタウンでの職場体験等	年間利用者数 100,000人	21,553人 (達成率：22%)	C
(4) プログラミング教育推進事業 ★	—	中学校技術・家庭科(技術分野)において、情報技術の「継続と制御の技術」について学ぶ研修を1回実施。	※
<b>事業18 多様な人材の就労に対する支援</b>			
(1) 若者の就労支援事業 ★	親と若者の就労支援セミナー 参加者満足度93%	93.2% (達成率：100%)	A
(2) 若者の地元就職・UIJターン就職の促進事業 ★	①市内企業への就職関心度95% ②将来の選択肢が広がった生徒の割合96%	①95.0% (達成率：100%) ②97.8% (達成率：102%)	①A ②A
(3) 企業OB人材の活用【再掲】 ★	マッチング率(参加企業のうち、人材の支援を受け入れた企業の割合) 50%	35.7% (達成率：71%)	B
(4) 高齢者就労促進事業 ★	高齢求職者の雇用・就業数 160人	287人 (達成率：179%)	S
(5) 女性活躍ブランド認証事業 ★	—	認定件数3件	※
(6) 首都圏の女子学生を対象とした就労支援 ★	就職関心度 90%以上	100% (達成率：100%)	A
(7) 働き方改革の実現に向けた環境整備の推進 ★	ダイバーシティに取り組むきっかけとなった企業割合 80%以上	100% (達成率：125%)	A
<b>事業19 若手職人の育成事業</b>	長期支援利用者数 4人	4人 (達成率：100%)	A
<b>事業20 働き方改革の実現に向けた環境整備の推進【再掲】 ★</b>	ダイバーシティに取り組むきっかけとなった企業割合 80%以上	100% (達成率：125%)	A

注) ★印は第3次基本計画の策定に伴い新たに搭載された事業

表7 方針5の実施状況等

## ⑥方針6 伝統工芸技術の保存・継承

方針6では、表8のとおり、数値目標を設定している1事業5項目について、「S」評価が1項目、「A」評価が3項目、「C」評価が1項目となったことから、方針別実施状況の評価を「○（期待どおり）」としています。

事業21－（1）「伝統工芸技術アーカイブス事業」は、熟練職人の高齢化や後継者不足により、今後存続が危ぶまれる伝統工芸技術に対する保存・継承の取り組みとして、消失の危機に直面する熟練職人技術を抽出し、映像化や技術工程のサンプル化等により文化として保存し、後世への継承を図る事業です。令和4年度は木彫刻の技術を保持する職人の、技術工程の映像を制作しました。

各業界により後継者数や職人数など事情が異なるため、事情を把握しつつ調整を行っていくとともに、技術保持者の健康状態は今後も確実とはいえないため、期間を置かず確実に保存を図っていく必要があります。一方で、アーカイブ技術は各職人個人の技術でもあり安易な公開はできないため、技術保持者との協議もしっかりと行う必要があります。

事業21－（4）「オクシズ「漆-japan-の里」構想事業」は、中山間地「オクシズ」への漆の木植林、漆職人の育成等により地域の文化財を守る仕組みを築き、「漆-japan-の里」としてのブランド化と伝統工芸技術の継承を図るものです。令和4年度は目標面積を上回る漆の植樹を実施したほか、「オクシズ『漆の里』協議会」により、調査事業として漆の成分分析、付加価値向上事業として商品開発等に取り組みました。引き続き、市内産漆の地産地消体制の構築を目指し、協議会の各種事業を計画的に展開していくとともに、事業のブランド化を図ることで市民や民間企業等の理解を深め、事業継続のための資金確保、体制作りにつなげてまいります。

方針・事業	成果指標	令和4年度 事業結果	事業評価
<b>方針（6）伝統工芸技術の保存・継承</b>			
<b>事業21</b>			
<b>伝統工芸技術の保存・継承</b>			
(1) 伝統工芸技術アーカイブス事業 ★	映像化本数 1本	1本 (達成率：100%)	A
(2) 伝統工芸保存講習会の開催	①開催部門 5部門 ②参加者数 38名	①5部門 (達成率：100%) ②37名 (達成率：97%)	①A ②A
(3) 伝統工芸技術秀士の顕彰	秀士の指定者数 1名	0名 (達成率：0%)	C
(4) オクシズ「漆-japan-の里」構想事業【再掲】 ★	漆植樹面積 0.36ha	0.47ha (達成率：131%)	S
(5) 地域おこし協力隊による「井川メンバ」の保存・伝承 ★	令和3年度に終了	-	※

注) ★印は第3次基本計画の策定に伴い新たに搭載された事業

表8 方針6の実施状況等

### (3) 基本計画実施状況の総括

第3次静岡市ものづくり産業振興基本計画については、平成31年度からの4か年計画として、令和4年度をもって計画期間を修了しました。

令和4年度の第3次ものづくり産業振興基本計画登載事業の実施状況については、表9のとおり、6つの方針のうち3つの方針において「○（期待どおり）」の評価となりました。また、計画期間4か年を通じた、登載事業に占めるS評価及びA評価となった事業の割合は平均72.7%となり、計画期間を通じて「期待どおり」であったと捉えることができると考えております。

さらに本計画の目標は「計画最終年度（令和4年度）末時点の製造品出荷額等 2兆円」と設定していますが、「2022年経済構造実態調査 製造業事業所調査」の本市における製造品出荷額等の上位5分類は「電気機械器具製造業（対前年比1.1%増）」「食料品製造業（同23.3%増）」「化学工業（17.4%増）」「非鉄金属製造業（同34.7%増）」「はん用機械器具製造業（同4.4%増）」であり、全体の製品出荷額等は2兆2,375億円と当計画の目標値を達成する結果となりました（増加率は「2021年経済センサス活動調査・産業別集計」と「2022年経済構造実態調査 製造業事業所調査」を比較）。

以上から、第3次静岡市ものづくり産業振興基本計画は、計画期間中に新型コロナウイルス感染症等突発的な事象に見舞われたものの、目標を果たすことができたかと捉えています。

令和5年度からは「第4次静岡市ものづくり産業振興基本計画」がスタートします。計画の目標を「持続的な成長を続けるものづくり創造都市 静岡」と掲げ、2つの政策「モノを創るコトづくり」「モノを創るヒトづくり」のもと、5つの施策とこれに紐づく各事業により、多様化する社会経済問題、事業の高付加価値化による競争力の強化、次世代を担う人材の確保といった課題に向き合い、8か年計画により、本市のものづくり産業の振興を図ってまいります。

方針	事業評価	該当事業数	事業評価の割合	「期待どおり」(S+A)以上の事業の割合	実施状況の評価
方針1	S	1	50.0%	50%	△
	A	0	0.0%		
	B	1	50.0%		
	C	0	0.0%		
	※	2			
方針2	S	4	50.0%	75%	○
	A	2	25.0%		
	B	0	0.0%		
	C	2	25.0%		
	※	2			
方針3	S	0	0.0%	50%	△
	A	2	50.0%		
	B	2	50.0%		
	C	0	0.0%		
	※	0			
方針4	S	9	56.3%	63%	△
	A	1	6.3%		
	B	2	12.5%		
	C	4	25.0%		
	※	0			
方針5	S	2	16.7%	75%	○
	A	7	58.3%		
	B	1	8.3%		
	C	2	16.7%		
	※	2			
方針6	S	1	20.0%	80%	○
	A	3	60.0%		
	B	0	0.0%		
	C	1	20.0%		
	※	1			
方針別実施状況の評価	S+Aの割合が	■90%以上 : ◎ (期待を上回る) ■70%以上90%未満 : ○ (期待どおり) ■50%以上70%未満 : △ (期待を下回る) ■50%未満 : × (期待を顕著に下回る)			

表9 方針別実施状況の評価

評価区分	該当事業数	数値目標のある事業に占める割合	左記のうち「期待どおり」(S+A)となった事業の割合
S	17	36%	68.1%
A	15	32%	
B	6	13%	
C	9	19%	
※	7		
計	54		

表 10 評価区分別の事業数の割合等

評価区分	年度				「期待どおり」(S+A)となった事業の割合	計画期間を通じ「期待どおり」(S+A)となった事業の割合
	H31	R2	R3	R4		
S	16	13	19	17	35.5%	72.7%
A	21	14	18	15	37.2%	
B	6	4	2	6	9.8%	
C	7	9	7	9	17.5%	
※	8	14	9	7		
計	221					

表 11 年度別の評価区分別事業数の割合